

暫定的措置とはいえ 8 月からの給与減額によって 熊大教職員はどんな思いをしているか……。

8 月からの給与減額後、生活費のやりくりで苦労されている熊大教職員が多いことと予想されます。組合には文系・理系・職種・職階・性別を問わず多くの「生の声」が寄せられていますので、紹介します。熊大使用者は、こうした教職員の声をどのように受け止めるのでしょうか？

○給与減額は 2014 年 3 月までというのを本当に守ってもらえるのか。延長しないか心配。(教員・女性、一般職員・男性)

○減額された給与が震災の復興財源に使われなかったら悔しい。ちゃんと使われているのがわかるようにしてほしい。(教員・女性)

○復興のためと我慢しているが、先日テレビで復興と関係なさそうな所で使われているのを見てムッとした。本来使われるべき被災地のみで使って欲しい。(一般職員・男性)

○月々生活費を妻に渡しているが、8 月から減額された給料の額を正確には妻に伝えていない。まだ正式な減額ではなく秋の交渉で取り戻す可能性があるためだが、正確な額を伝えた時の妻の反応も怖い。(教授・男性)

○8 月 17 日にすぐにやったことは、子供の学資のための月々わずかな定期預金積み立ての解約。昼の弁当代も 230 円以内に抑えるようにした(弁当が 200 円から 30 円値上げしたのが痛い)。(教員・男性)

○積み立て貯金の停止を考えている。(一般職員・男性)

○毎月払っていた妻の保険を解約した。(一般職員・男性)

○子どもの学費が足りず、奨学金という名の借金が増え続けている。生活が苦しくなった。(教員・男性)

○学費やローン返済などがあるなかで、生活費の調整が苦しい状況となっている。(教授・女性)

○3 人の子供を大学に通わせ、家のローンを抱えている。このタイミングでの給与引き下げは相当きつい。1 人は卒業就職したが、2 人のうち 1 人は在学中で、もう 1 人は就職前に病気にかかり療養中の費用を世話しなければならない。今の時代、大学卒業後すんなり就職できるとは限らないので、就職浪人中の子供の面倒を見なければならない親は、本学の教職員でも珍しくないのではないか。(教員・男性)

○東京で暮らす息子の学費、生活費等を工面するために、散髪は自宅で行なうようになった。(教員・男性)

○マイホーム購入を計画中であったが、先送りになった。給与が安定しないとライフプランにも影響

する。(教員・女性)

○結構大変です。独身ですが結婚されている先輩の話を聞いていたら、今の自分の給与と将来の給与推移を考えると結婚なんてやっていけなさそうな気がします。(一般職員・男性)

○現在月額家賃 6 万 8000 円(駐車場付き)のマンションに住んでいるが、もっと安いところに移るべきか検討しなければならないのではないかと脅迫観念にかられる。

今まで学生との懇親会等で「多少なりとも多めに払う」、「少人数であればおごる」ということをしてきた。しかし、自分は今やそのようなことをする立場にないと自らを戒めねばと思う。

今まで 2・3 ヶ月に 1 回は遠方に住む親のところへ飛行機で行って見舞いや手伝いをしてきた。そこには一定の給料を得ているからこそできることであるという誇りもあった。

しかし、給料減額後、その出費を手痛く感じながら親の見舞いに行くのが辛い。(教授・女性)

○度重なる給与引き下げに、結構若いころにもらっていた月給になりました。生活費を切り詰めるわけにもいきませんので、小遣いを下げてもらいました。たまに後輩たちとも飲みに行きたいのですが、現状では無理のようです。この先、昇給も期待できないので、若干あきらめが入ってきています。(一般職員・男性)

○給与削減幅は少なく若手の給与見直しで少しは増額にはなりましたが、若手層でありながら給与の伸びがなく、毎年の給与明細に悲しくなってきました。(一般職員・男性)

○子供にも金がかかり、妻に冗談まじりで「働きに出てもらわないと」と言っていたことが現実になりそうです。以前の先輩方の給与とは業務が多忙化したにもかかわらず開きが多いので、業務自体にも意欲がなくなってきました。ただ、家族のためには頑張らないといけないんですが。(一般職員・男性)

○給与が下がった分だけでも、兼業(アルバイト)などで補填できないものかと思います。(一般職員・男性)

○これまで本務を優先してきたが、減額された分を非常勤等で対応せざるを得ない状況も出てくる。(教員・女性)

○研究費も減る、給料まで減る。では、士気が上がらない。(教員・男性)

(裏につづく)

赤煉瓦	熊本大学教職員組合	
	No.9 2012. 10. 9	内線:3529 FAX:346-1247 ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp http://union.kumamoto-u.ac.jp/

- 研究費が少なく、自腹を切って学会に行ったり研究をしたりしているのに、さらに大幅な給与削減となると、自腹を切るのも難しくなるし、モチベーションが下がる。(教員・女性)
- 公然と言うことはできないが、仕事(教育や事務的業務)の質・量を給与の減額分に対応させざるを得ないと考えている。(教員・男性)
- 将来にわたって熊本大学にいることに不安を感じ、移籍を考えている。(教員・女性)
- 家計の見直しを余儀なくされている。出張の際などの立て替えばらいのやりくりも苦しくなっている。宿舍も出ていかなければならない状況下(熊大職員と公務員との宿舍貸し借りの解消のため)、国立大学教員であるメリットはほとんどなくなっている。2014年4月以降も給与水準が戻らないということであれば、条件のよい私大などへの移籍をまじめに考えざるを得ない。(教授・男性)
- オープンキャンパス業務で大学のために尽力したと思った矢先の想定以上の減額に、完全にやる気を削がれてしまった。このような士気の低下は、まず教育の質の低下につながっていくであろうし、学生がその第一の被害者となるであろう。
住宅ローンの見直しもおこなわざるをえなくなった。
これまで抑えられてきた熊大の給与水準を今こそ回復させるべきではないか。
新学期を目前としながら、他大学の公募状況のチェックが日課になっている。
高給をもらっている理事たち1人1人の考えを聞きたい。(教授・男性)
- 私の場合は、手取りが約3万くらい減りました……。明細を見るたびに、きちんと仕事をしているのに情けないという思いがふつふつとわいてきて、こんなにモチベーションって落とすことができるんだと思ってます。残業して稼いじゃおうかと思いましたが、頑張る気力もわきません。外食はできるだけ減らして、無駄な買い物も減らしていますが、もともとが少ないので、それでもギリギリです。貯金ができません。この状態が時限措置であるとしても、なんとか減額率を圧縮してもらえよう使用者の英断を促したいです。共済貯金の取り崩し申請が8月以降、すごい勢いらしく事務処理が大変だと聞いています。(一般職員・女性)